

公益財団法人ベネッセこども基金
2023年度経済的困難を抱える子どもの学び支援活動助成 申請書

事務局記入	
受付日	
No.	

黄色いセル： 入力用 青いセル： 入力不要 ※セル内で改行する場合は、[ALT]+[Enter]キーを押す

【1】貴団体について					
1. 団体名(代表名)	団体種別／法人格	クリックして選択	その他を選んだ場合は記載		
	ふりがな	<div style="border: 2px solid red; padding: 5px; text-align: center;"> <p>赤文字：記入上の留意点</p> <p>青文字： 記入例</p> </div>			
	団体名称				
	ふりがな				
	代表者名				
役職					
2. 代表者略歴	<p>職歴や申請団体との関係、他団体等での兼職する役職や受賞歴、著書などを記入</p> <div style="border: 2px solid red; padding: 5px; text-align: center;"> <p>右欄の文字数以内で記入（全角）</p> <p>※セルを広げずに枠内で記入</p> </div>				
3. 団体住所／連絡先	郵便番号				
	都道府県名				
	市区町村・丁目番地				
	建物名など				
	代表電話番号				
	代表E-mail				
	団体サイト(URL)				
	団体Facebook(URL)				
その他・団体SNSなど					
4. 担当者／連絡先	ふりがな				
	担当者名				
	担当者電話番号				
	担当者E-mail				
※担当者の発送物受け取り場所が 団体住所と異なる場合のみ記載	郵便番号				
	担当者住所				
5. 団体情報	職員数	常勤：	人	非常勤：	人
	ボランティア数	有償：	人	無償：	人
	昨年度収入計	直近の会計年度で実績の確定した数値を記入			円
	体制・組織図 ※別添も可				
6. 団体沿革 ※設立のきっかけ、 現在に至る経緯など	<p>申請事業以前に行っていた事業内容を経年で記入</p> <ul style="list-style-type: none"> ●●年～：九九ができない中学生と出会ったことをきっかけに、●●市にて低額の学習支援教室事業を開始 ●●年～：2教室目の立ち上げをきっかけに団体サイトを作成。近隣の大学生や社会人ボランティアの募集を開始 ●●年～：NPO法人を取得。市からひとり親などの就学援助対象の子どもの紹介を受け、無償での学習支援事業を開始 ●●年～：中学卒業後、高校生年代になると支援が途切れてしまい、通える場所がない子どもたちのために居場所事業を開始 				
7. 団体が目指していること (ビジョン・ミッション)	<p><ビジョン> すべての子どもたちが、自ら可能性を広げられる社会を作る</p> <p><ミッション> 私たちは……………</p>				

【2】貴団体の事業について			
1. 団体事業 子ども支援領域 の事業 ※ない場合は 記載不要	事業①	事業名	経済的困窮世帯向けの拠点型学習支援(小・中学生向け)
		対象(地域/年齢)	地域: ●●県●●市 ●●地域/●●地域 年齢(学齢): 小学5年生～中学3年生
		事業内容(概要)	●●市の2拠点にて、経済的な理由で塾などに通えない子向けに学習会を開催している。家庭の収入格差がそのまま教育格差につながってしまっている課題に対して、すべての生徒が公立高校に合格することがゴール。近隣の大学の学生ボランティアを中心に、学習習慣づけをメインに取り組んでいる。
		実績(成果)	・現在、2拠点あわせて、週4回開催。小学生●名、中学生●名が通う。 ・昨年度は中3卒業生の●名全員が高校に進学。 ・●●市教育委員会の事例資料に掲載(学力低下を予防するセーフティーネットとしての評価)
	事業②	事業名	経済的困窮世帯向けのオンライン学習支援(中学3年生の希望者向け)
		対象(地域/年齢)	地域: ●●県●●市 ●●地域/●●地域 年齢(学齢): 中学3年生
		事業内容(概要)	教室まで通えない中3生に対して、PCとWi-Fi機器を貸与し、オンライン学習支援を実施している。そもそも学びに向かう姿勢が低い子に対して、大学生ボランティアが中心となり、生徒が興味を引くオリジナルプログラムを開発。全員の公立高校合格を目指す。
		実績(成果)	・中3生●名にPCとWi-Fi機器を貸与。オンライン学習支援を計●回実施。 ・大学生ボランティアたちが中心となり、オンライン学習支援プログラムを開発。 ・高校進学希望者は全員高校に合格
	事業③	事業名	居場所事業
		対象(地域/年齢)	地域: ●●県●●市 ●●地域/●●地域 年齢(学齢): 中学卒業後の高校生年代
		事業内容(概要)	中学卒業後、高校に進学しても中退してしまう子どもたちが通う場所がないため、既存の教室を一部拡張して居場所事業を開始。学習以前の問題として、親や学校を頼れない高校生年代が孤立してしまう現状に、まずは孤立させないコミュニティを提供し、信頼できる大人や学生たちとのつながり作りを目指す。
		実績(成果)	・週1～2回程度開催。高校生年代●名が参加。
2. 子ども支援領域以外の事業 (事業内容、対象者、実績) ※ない場合は記載不要	<p>・高齢者向けスマホの使い方研修(●●市からの受託案件)</p> <p>●月: ●●地域の高齢者の方向けスマホの使い方教室(年●回実施)</p> <p>●月: ●●市役所にてインターネット安全活用相談窓口を受託</p> <p>実績: 地元メディア●●の記事(●月●日付)に取り上げられる</p>		
3. 貴団体の強み/弱み	<p>貴団体が本助成に申請する事業を実施する上で、現状認識している強み/弱みを記載</p>		
強み	<p>・義務教育年代の地域関係機関との連携</p> <p>●●市内での小中学生の学習支援を●年継続しており、低学力の子どもたちの高校進学率が向上したことから、学校や市の教育委員会からも子どもの紹介をいただくなどの連携が生まれつつある。昨年度は市からの視察もあり、広報誌にも掲載された。また、●●市は代表の出身地であるため、地域の子ども支援団体をはじめ、様々な関係機関とのつながりがある。</p> <p>・●●市の複数の行政部局および社会福祉協議会との協業実績</p> <p>若いスタッフが多いため、教育委員会だけでなく、高齢者向けのスマホ研修などを通して福祉部や社会福祉協議会などとの協業実績あり。高齢者から子どもまで、自治体が抱える様々な課題で行政と連携できる土台ができてきた。</p>		
弱み	<p>・子ども支援活動のためのリソース不足</p> <p>子ども支援活動に特化して取り組みたいが、小規模自治体のため若いスタッフを抱える団体が他になく、自治体から高齢者向けのスマホ研修などの委託事業を受け入れている。そのため本来であれば支援が途切れがちな高校生年代の調査や支援活動にかけるべき人材が不足している。また、通う場所のない高校生年代が増えてきているため、現在の学習教室の一角ではスペースが不足してきている。</p>		

【3】本助成での活動計画					
1. 本助成で取り組む課題	対象(地域/年齢)	地域:	●●県●●市 ●●地域/●●地域	年齢(学齢):	小学生～高校生年代
	課題認識 ※支援対象者の現状などを記載	<p>これまでの活動や成果をふまえ、本助成で解決したい課題および支援する対象者の状況を記入 ※できるだけ数字等の根拠を用いて具体的に記入ください</p> <p>当団体ではこれまで地域の小中学生向けに学習支援を行ってきたが、高校に合格しても支援が途切れると、高校を中退する子どもたちが見られる。中学卒業後には支援が途切れてしまい、地域に支援者がいてもこの年代とはコミュニケーションが難しくなる課題がある。</p> <p>内閣府の調査資料では、生活困窮世帯の高校中退率は●●%とあり、一般家庭に比べて高い。当学習会による地域内の調査では、●●%とより高い数値を示している。</p> <p>主な要因は、①学業不振でも塾等に通えない、②部活等にかかる費用のため友人との付き合いができず孤立、③高校生活にかかる費用を稼ぐためのアルバイトで学校を遅刻欠席、などと経済的理由に起因するものが続く。</p> <p>上記要因以外にも、「学習性無気力」と呼ばれる課題も感じている。学習支援の場だけでは、学習への「意欲」がないと支援につなげられないが、それ以前の支援が必要な子どもには、何かに取り組もうという意欲がないことが多い。「どうせ自分なんていても意味がない」「頑張っても意味がない」「やりたいことがない」という子どもたちの声をよく聞く。これらは彼らがこれまで暮らしてきた環境で培ってきたものであり、これらを解決するためには、安心していられる居場所と、信頼できる人とのつながりを取り戻すことが重要となる。</p>			
	解決の方向性	<p>上記の課題を解決するための取り組みの方向性を記入</p> <p>中学卒業後に支援が途切れ、生活困窮世帯の高校生年代が孤立化しないよう、地域内に通いつづけられる居場所を用意する。</p> <p>高校に通う子どもには、アルバイトで時間がとれない学習の支援を実施。高校中退者については、低学力やソーシャルスキルの問題があり、すぐに就労にはつながらないケースが多い。学び直しの上、高卒資格取得を目指すのか、もしくは学習以外の方面で自分が興味を持つ分野に進むのか、自分の関心に向き合い、意欲を取り戻す時間が必要となる。そのためには、信頼できる大人たちとつながり、様々な活動を通して、子どもたちが自らの選択肢を広げられるような環境を整えたい。</p> <p>具体的には、次の3点の取り組みにより、今後の事業継続・発展の土台をつくっていききたい</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 高校生向け居場所づくり事業： 中学卒業後も、気軽に通える居場所を用意し、子どもたちの中退や孤立防止を行う 2. 信頼できる大人との地域活動事業： 居場所では、子どもの関心ある活動を通して、地域の信頼できる大人とつながり、地域活動参画を目指す 3. アウトリーチ事業： 居場所に自ら来ることができない子どもに対しては、行政と連携して家庭訪問活動事業を行う 			

2. 申請事業名 ※活動内容をわかりやすく記載	1. をふまえた申請事業の名称を記入 ※申請事業の取り組みの内容がわかりやすい名称をご検討ください。 経済的困窮家庭の高校生年代の孤立を防ぎ、社会参画を促進する居場所づくり事業
----------------------------	---

3. 申請事業テーマ	申請事業区分	AかBのどちらかに <input checked="" type="checkbox"/>		A. 既存事業強化		B. 新規事業	
		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
A. 既存事業強化を選択した場合は①～⑤を選んで☑(複数回答可)	<input type="checkbox"/>	① 子ども支援活動の質向上		<input type="checkbox"/>	④ 事業基盤の強化・業務改善		
	<input checked="" type="checkbox"/>	② 子ども支援活動の普及・拡大		<input type="checkbox"/>	⑤ その他のテーマ		
	<input type="checkbox"/>	③ ネットワーク構築・政策提言					
⑤を選んだ場合はテーマを記載							

1. の「課題認識」や「解決の方向性」に対して、どのような目標感やステップで、事業を積み上げていくのか大枠を記入（2か年 または 3か年）						
助成終了後の事業の自立的継続・発展						
4. 申請事業で 目指す状態	▲ ▲ ▲ 3年目	目指す状態(ねらい)	子どもたちが自分の関心ある地域活動を通して、地域の他団体や企業と連携し、自らが役立てる居場所を増やしている。地域の高齢者も、子どもたちとコミュニケーションが増え、お互いの得意を通じた助け合いが増えている。			
		実行項目(案)	調査結果をもとに、地域活動事業を他団体や企業の大人たちにも広めることで、子どもたちの社会参画やアルバイトなどの就労につなげる。高齢者も含めた多世代交流も開始し、農業などの地域産業など、子どもたちが学習面以外でも必要とされる場所を増やす。			
		事業総額(予定):	4,500,000	円	助成申請額:	3,000,000
	▲ ▲ ▲ 2年目	目指す状態(ねらい)	子どもたちが関心を持つテーマで信頼できる大人とつながり、意欲を取り戻すプロセスが明らかになり、事例やデータをもとに、学習性無気力の子どもへの支援の必要性について認知が高まる。			
		実行項目(案)	運営する居場所に来ている子どもたちが、どのように自分の関心や意欲を取り戻し、信頼する大人とつながるプロセスやその後の変容について調査する。学習性無気力の子どもへの支援の必要性についてシンポジウムなどで発信する。			
		事業総額(予定):	3,000,000	円	助成申請額:	3,000,000
	▲ ▲ ▲ 初年度	目指す状態(ねらい)	中学卒業後に支援が途切れる高校生向けに、中退や孤立防止のための居場所ができている。学習には無気力の子どもも居場所に参加し、地域の信頼できる大人たちとつながり、自分の関心や意欲に向き合うことができている。			
		重点実行項目①	高校生向け居場所づくり事業			
		重点実行項目②	信頼できる大人との地域活動事業			
		重点実行項目③	アウトリーチ事業			
		【4】-4 予算計画より自動反映	2,560,000	円	本助成	2,220,000
	3年間総計（助成申請総額）		8,220,000	円	【助成申請総額】 9,000,000円以内（3年間）	

【4】初年度の計画詳細

1. 重点実行項目 ※【3】-4. 初年度の「目指す状態(ねらい)」および「実行項目」の詳細を記載

目指す状態(ねらい) ※自動反映		中学卒業後に支援が途切れる高校生向けに、中退や孤立防止のための居場所ができています。学習には無気力の子どもも居場所に参加し、地域の信頼できる大人たちとつながり、自分の関心や意欲に向き合うことができています。
重点実行項目① ※自動反映		高校生向け居場所づくり事業
対象	地域:	●●市 ●●地域/●●地域
※具体的に	年齢(学齢):	高校生および高校生年代(中退者含む)
施策の内容 ※規模、回数、連携先などもわかるように記載		1. 高校生年代向けの居場所立ち上げ(4~5月) ・市内のスペースを借り上げ、常設の居場所を立ち上げる。学習支援だけでなく、高校生年代が気軽に通えるように、漫画やゲームなども用意し、食事スタッフとできるなど、安全でリラックスして過ごせるスペースをつくる。 2. 居場所スタッフの研修(5~6月) ・スタッフ向けに居場所運営マニュアルを整備し、計●回の研修会を開催。地方で先駆的な居場所を運営しているNPO団体●●を視察訪問し、スタッフ受け入れ研修を実施いただく。そこでの学びや気づきを運営マニュアルに反映させる。 3. 地域の生活困窮世帯の高校生や中退者に向けた告知(6~7月) ・団体サイトやSNSの告知に加えて、●●市の学校や市教育委員会および、地域の関係機関や、●●市にある中退率の高い高校と連携して、高校生●名に向けてチラシを配布。QRコードでオンライン問合せができるようにして、まずは気軽に居場所に足を運んでもらうようコミュニケーションする。 4. 高校生年代の居場所運営スタート(8月~)
達成目標 ※数値目標、成果指標、成果物など		1. 高校生年代向けの居場所の完成(5月半ば) 2. スタッフ向けに居場所運営マニュアルを作成。スタッフ研修(●名)を●回開催した上で、NPO団体●●にて受け入れ研修を実施(6月中) 3. 団体サイトやSNSでの告知の他、チラシ●枚を用意し、学校など地域の関係機関に配布。オンライン相談●件 4. 高校生年代の居場所参加者●名
重点実行項目② ※自動反映		信頼できる大人との地域活動事業
対象	地域:	●●市 ●●地域/●●地域
※具体的に	年齢(学齢):	高校生および高校生年代(中退者含む)
施策の内容 ※規模、回数、連携先などもわかるように記載	
達成目標 ※数値目標、成果指標、成果物など	
重点実行項目③ ※自動反映		アウトリーチ事業
対象	地域:	●●市 ●●地域/●●地域
※具体的に	年齢(学齢):	高校生および高校生年代(中退者含む)
施策の内容 ※規模、回数、連携先などもわかるように記載	
達成目標 ※数値目標、成果指標、成果物など	

2. スケジュール ※重点実行項目別に、助成期間(2023年4月～2024年3月)の主なスケジュールを記載

	重点実行項目① ※自動反映	重点実行項目② ※自動反映	重点実行項目③ ※自動反映
	高校生向け居場所づくり事業	信頼できる大人との地域活動事業	アウトリーチ事業
4月	行政や他団体から紹介されたスペースの現地調査および居場所の決定
5月	既存教室の一角から居場所への引っ越し スタッフ向け運営マニュアルの完成および研修
6月	スタッフ向け研修の実施(●名×●回) NPO団体●●の受け入れ研修を実施(●名)
7月	団体サイトやSNSでの告知開始 生活困窮家庭の高校生向け告知ビラ作成 学校・市教育委員会、●●高校・県教育委員会 など関係機関への案内開始 オンライン相談窓口用意、居場所体験開催
8月	居場所運営スタート
9月
10月
11月
12月
1月
2月
3月

3. 予算計画		本申請事業の予算を、重点実行項目ごとに記載（記入例を参考に、根拠が明確にわかるように単価・人数・回数等を明記） ※内訳／算定根拠は、実行項目とのつながりがわかるように記載してください（単位：円）			
重点実行項目① ※自動反映		高校生向け居場所づくり事業			
項目		内訳／算定根拠	(a)費用計	(b)本助成	(c)他の財源
会場賃借料		居場所賃借料： 月50,000円×12ヶ月	600,000	600,000	0
制作費		団体サイトのページ作成： 30,000円、 告知ビラデザイン： 15,000円	45,000	45,000	0
印刷費		支援者マニュアル： 5,000円(@250円×20冊)、告知ビラ： 20,000円(@25円×800枚)	25,000	25,000	0
広告宣伝費			0	0	0
人件費		居場所運営(有償スタッフ)： 時給1,200円×●時間×●日×●人	1,200,000	1,200,000	0
謝礼			0	0	0
旅費交通費		スタッフ交通費： 往復1,000円×●人×●回	60,000	60,000	0
運賃通信費		Wi-Fi、Zoomなど通信費： @10,000円/月×12ヶ月	120,000	120,000	0
会議費			0	0	0
図書新聞費		教材・本・漫画： 月10,000円×10ヶ月	100,000	0	100,000
消耗品		コロナ感染対策用具： 20,000円 食事関連消耗品：30,000円 食費：月20,000円×12ヶ月	290,000	50,000	240,000
備品			0	0	0
委託費		研修委託費として100000円	100,000	100,000	0
その他①	保険料	保険(●●保険、月●円×●ヶ月)	20,000	20,000	0
その他②			0	0	0
その他③			0	0	0
合計		(a):費用計/(b)本助成申請金額計/(c)他の財源計	2,560,000	2,220,000	340,000

重点実行項目② ※自動反映		信頼できる大人との地域活動事業			
項目		内訳／算定根拠	(a)費用計	(b)本助成	(c)他の財源
会場賃借料		0		
制作費		0		
印刷費		0		
広告宣伝費		0		
人件費		0		
謝礼		0		
旅費交通費		0		
運賃通信費		0		
会議費		0		
図書新聞費		0		
消耗品		0		
備品		0		
委託費		0		
その他①			0		
その他②			0		
その他③			0		
合計		(a):費用計／(b)本助成申請金額計／(c)他の財源計	0	0	0

重点実行項目③ ※自動反映		アウトリーチ事業			
項目		内訳／算定根拠	(a)費用計	(b)本助成	(c)他の財源
会場賃借料		0		
制作費		0		
印刷費		0		
広告宣伝費		0		
人件費		0		
謝礼		0		
旅費交通費		0		
運賃通信費		0		
会議費		0		
図書新聞費		0		
消耗品		0		
備品		0		
委託費		0		
その他①			0		
その他②			0		
その他③			0		
合計		(a):費用計／(b)本助成申請金額計／(c)他の財源計	0	0	0

重点実行項目①～③ ※自動反映				
予算計画まとめ	項目	(a)費用計	(b)本助成	(c)他の財源
	会場賃借料	600,000	600,000	0
	制作費	45,000	45,000	0
	印刷費	25,000	25,000	0
	広告宣伝費	0	0	0
	人件費	1,200,000	1,200,000	0
	謝礼	0	0	0
	旅費交通費	60,000	60,000	0
	運賃通信費	120,000	120,000	0
	会議費	0	0	0
	図書新聞費	100,000	0	100,000
	消耗品	290,000	50,000	240,000
	備品	0	0	0
	委託費	100,000	100,000	0
	その他①	20,000	20,000	0
	その他②	0	0	0
その他③	0	0	0	
合計	2,560,000	2,220,000	340,000	

3年間総額	事業総額	10,060,000	円
	うち助成申請額	8,220,000	円

申請時 初年度予算 (c)他の財源の内訳			
下記であてはまるものに☑ (複数可)		内訳	金額(円)
<input type="checkbox"/>	①行政の補助金		
<input checked="" type="checkbox"/>	②本助成以外の助成金	〇〇財団「●●支援助成」	1,000,000
<input type="checkbox"/>	③寄付・会費		
<input type="checkbox"/>	④その他の財源		

申請内容について、メールやオンライン等で確認をさせていただく場合があります。あらかじめご了承ください。